



南アルプスの良さを見つめ直して

山の木々も色づき始め、秋の深まりを感じる頃になりました。今年の天候は異常で9月の長雨が終わったと思ったら、10月半ば過ぎに30℃を超える猛暑日もありました。最近「平年並み」とか「去年は」という言葉の解釈が難しくなってきました。

さて、学校では各学年の校外学習が盛んな時期となっています。先日の修学旅行に始まり、生活科見学、社会科見学等、それぞれの学習にあわせた校外学習となっており、机上での学びを実際に目で見たり、肌で感じたりする貴重な体験となっています。昔から「百聞は一見にしかず」という言葉もあるとおり、学校を飛び出しての学習には大きな効果が期待できます。南アルプス市内にも歴史に関わる遺跡や寺社、そして、産業を代表する工場など多くの見学場所があります。普段はその目の前を素通りしてしまったり、学校だから見学できたりする場所もあります。私も市内の多くの場所に見学に行きましたが、その中で特に印象にあるのは古長善寺、法善寺等に代表される「甲斐源氏ゆかりの地」です。また、その流れをくみ、後の武田氏の繁栄まで長く続き、甲斐国は古くから馬術や弓術が盛んで、弓馬術の流派である「小笠原流」「武田流」も甲斐源氏の流れから誕生しています。もちろん、小笠原長清公館跡である本校もそうですが、南アルプス市はとても歴史ある町になります。広く県内外に目を向けることも大切ですが、地元をしっかりと見つめ、地元を愛する気持ちを育てていきたいですね。

地域の力に感謝！

今年度から「学校運営協議会」が発足しました。これは学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みとなっています。本校でも6名の方を委嘱し、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくこととなっています。その会の折に委員の方から、「学校ボランティアに取り組みたい」という声をいただき、現在5、6年生の家庭科を中心に、子供たちの指導のお手伝いをいただいています。特に家庭科では、ミシンや裁縫の学習にとっても手がかかり、このようにボランティアとしてお手伝いいただけていることに、とても感謝しています。その他にも、生活科見学では、保護者の方に付き添いをお手伝いいただいたこともありました。普段から地域の方が学校に入り込み、一緒に子供たちの成長を支えたり、子供たちの様子を共有したりすることは、学校にとっても子供たちにとってもとても大切な経験となります。今後も地域の方、保護者の皆様に積極的に学校に来ていただき、多くの方と一緒に子供たちの成長を支えていきたいと考えています。また、特別なことがなくても気軽に足を運んでいただき、子供たちの普段の学校生活を感じていただきたいと思います。今後とも子供たちの健やかな成長を願い、を子供たちにとって、安心、安全な学校作りを心がけていきたいと思っています。